

氏名	中村裕美	部署	保健医療福祉学部作業療法学科・大学院保健医療福祉学研究科兼任	職名	教授
研究分野	作業療法理論, 高齢期作業療法学, 地域作業療法学				
学位	博士				
学歴	最終学歴 公立大学法人首都大学東京 大学院 博士後期課程 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 作業療法科学域 修了				
経歴	2017年4月より現職				
所属学会(役職)	University of Illinois at Chicago, The Model of Human Occupation, Clearinghouse(評議委員) British Journal of Occupational Therapy (学術誌編集委員, 学術集会演題採択委員) World Federation of Occupational Therapists(学術集会演題採択委員) 日本作業療法士協会(学術誌査読委員, 学術集会演題採択委員) 日本作業行動学会(評議委員) 臨床作業療法学会(学術誌査読委員) Japanese Journal of Nursing Science(査読委員)				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	Kielhofner's Model of Human Occupation, 5th edition	共著	Wolters Kluwer; P251	Kramer J, Forsyth K, Lavedure P, Scott PJ, Shute R, Maciver D, ten Velden M, Suman M, Nakamura HT , Yamada T, Keponen R, Pan AW, Kielhofner G	2017 March
(2) 論文					
1	Occupational Therapy Students Rating With the ACIS: Do They Agree?	共著	The Open Journal of Occupational Therapy3:28-37 国際学術誌 査読有	Bonsaksen T, Fouad M, Celo C, Nakamura HT	2016 July
(3) 学会発表					
1	Variables affected scores in Comprehensive Environmental Questionnaire among community-dwelling older adults	共著・筆頭	第50回日本作業療法学会 口述発表 英語セッション 札幌市,ロイトイン 査読有	○ Nakamura HT , Yabuwaki K, Kyougoku M.	2016 September
2	循環器内科に入院したうつ血性心不全患者に対する作業療法の役割の検討	共著	第50回日本作業療法学会 口述発表 札幌市,ロイトイン 査読有	○中村匡志, 山本朱美, 中村裕美	2016 September
3	足圧中心解析による脳卒中片麻痺患者が片手でズボン上げる動作の立位姿勢安定性	共著	第50回日本作業療法学会 ポスター発表 札幌市,ロイトイン 査読有	○鳥居誠志, 中村裕美 , 石岡俊之, 小池祐二, 濱口豊太	2016 September
4	光化学動作解析装置を用いた手指運動解析方法の検者内信頼性による予備的研究	共著	第50回日本作業療法学会 口述発表 札幌市,ロイトイン 査読有	○斎藤剛史, 石岡俊之, 富澤大和, 中村裕美 , 濱口豊太	2016 September
(4) その他					
1	招聘役割 Therapeutic use of self based on the Intentional Relationship Model (IRM)	単著	Zurich University of Applied Sciences Zurich Switzerland	Nakamura HT	2017 January

2	招聘役割 Content analysis with a data mining method for assessing intercultural competence	単著	Zurich University of Applied Sciences Zurich Switzerland	Nakamura HT	2017 January
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)		要支援の地域在住高齢者のための住生活の安全管理を支援する在宅健康プログラムの構築(研究代表者)		2015.April- 2019.March
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)		ケアのアウトカム評価ツールの地域包括ケアシステムへの活用可能性に関する研究(研究分担者)		2016.April- 2020.March
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)		ケアラーのQOLに焦点をあてた多面的なケアの質評価に基づく包括的ケアモデルの構築(研究分担者)		2016.April- 2020.March
4	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)		フレイル予防に資する地域高齢者ヘルスリテラシー様相の解明:IPW支援プロジェクト(研究分担者)		2016.April- 2019.March
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	グローバルヘルス香港理工大学短期留学	2016.April- 2016.October	保健医療福祉科目・前期・集中:科目責任者として、香港理工大学担当者との連絡・交渉により確認したプロセスに基づき、履修希望者の事前準備(県助成制度へのエントリーを含む)を促し、渡航終了後は、香港理工大学担当者からの情報提供に基づき成績を管理し、学内報告会開催準備とオープンキャンパス用ポスター作製を支援した。		
2	高齢期作業療法学特講	2016.October- 2016.December	作業療法学専門科目・後期・水曜日3-4時限:科目責任者として、eラーニング教材整備、ゲストスピーカー調整、学内実習環境整備、成績管理を行い、卒業後に高齢期領域での臨床活動を目指す学生の臨床活動スキルの向上を促した。		
3	保健医療福祉学際英語	2016.October- 2017.February	大学院・共通科目・保健医療福祉統括科目・後期・土曜日4時限:科目責任者として、eラーニング教材整備、演習実施、成績管理を行い、大学院生のアカデミックライティングスキルの向上を促した。		
4	国外大学からの短期留学生を対象とした講義 Rehabilitation for community-living older Japanese people	2016 August	国外大学からの短期留学生(香港理工看護学生6名 チューリッヒ看護学生2名 チューリッヒ作業療法学生2名)に対し、これまで授業で用い、また科研費で得てきた知見を英語で提供した。		
5	国外大学からの短期留学生を対象とした講義 Understanding Japanese culture, society, attitude	2016 August	国外大学からの短期留学生(香港理工看護学生6名 チューリッヒ看護学生2名 チューリッヒ作業療法学生2名)に対し、日本の社会規範や文化的特徴への理解を深め 文化的有能性を向上させるための講義を英語で提供した。		
(2) 演習					
1	臨床作業療法演習	2016.October- 2017.February	作業療法学専門科目・後期・水曜日3時限:科目責任者として、当該マニュアル整備、客観的臨床技能評価OSCEの患者役となる臨床家の選定と招聘準備、OSCEのための患者役トレーニング、OSCE運営のための科目分担者との連携、演習実施、成績管理を通じて、学生にとって最初の臨地実習への準備を促した。		
2	IPW演習	2016.August- 2016.October	共通科目・後期・集中:科目分担者:教員ファシリテーターとして、担当する医療機関の施設ファシリテーターとの連絡、学生への情報提供、演習中の討議促進、最終日の施設内発表会運営、最終日の地域別発表会の運営、学生成績の管理を行った。		
3	国外大学からの短期留学生を対象とした演習 Workshop with SPU undergraduate OT students	2016 August	国外大学からの短期留学生のうちチューリッヒ作業療法学生2名と、作業療法学科学生とで、看護学生同士の英語による討議を促進した。SPU学部学生にとっては、就学内容や職務を英語で表現する機会となった。		
4	国外大学からの短期留学生を対象とした演習 Workshop with SPU postgraduate students	2016 August	国外大学からの短期留学生のうちチューリッヒ作業療法学生2名に対し、大学院リハビリテーション専修に在籍する大学院生が 英語で自身の研究内容を発表する機会を設けた。SPU大学院生にとっては、国際学術集会の予行演習の機会となった。		
(3) 実習					
1	臨地実習 I-3(地域領域)	2016.April- 2017.March	作業療法学専門科目・後期・集中:科目責任者として、臨地実習施設獲得、臨地実習指導者会議開催、臨地実習指導者会議不参加の指導者との連絡、複数回の事前オリエンテーション、学生の臨地実習指導者会議への準備促進、当該マニュアル整備、臨地実習中の臨床指導者との連絡、成績管理、報告書作成を行った。		
2	高齢期作業療法学実習	2016.October- 2017.February	作業療法学専門科目・後期・金曜日1-2時限:科目責任者として、eラーニング教材整備、ゲストスピーカー調整、学内実習環境整備、成績管理を行い、学生の臨地実習 I-3への準備を促した。		

3	作業療法運動学実習	2016.June	作業療法学専門科目・前期・水曜日・4時限:科目分担者として、実技試験の評定者役割を担った。
4	臨地実習Ⅱ	2016.April- 2016.July	科目分担者として身体機能領域および精神機能領域の実習施設に配属されている学生の実習中の中間訪問を行い、学生、臨地実習指導者のそれぞれと面談した。
5	国外大学からの短期留学生を対象とした 病院体験実習 Fieldwork activities in Dokkyo Medical University affiliated Hospital and Soka municipal hospital	2016 August	国外大学からの短期留学生(香港理工看護学生6名 チューリッヒ看護学生2名 チューリッヒ作業療法学生2名)を引率し、医療機関での体験実習実習を行った。事前オリエンテーション、病院実習中の病院の実習担当者との連絡調整、実習中の通訳、留学生レポートを翻訳・集約し病院の実習担当者に向けた報告書を作成した。
(4)論文指導			
1	大学院博士前期課程	2016.April- 2017.March	主指導1名:研究デザイン構築、データ分析、中間発表会、最終審査のための発表会、論文構築、学術集会での発表会、論文構築という一連の研究プロセスを支援した。
2	学部学生卒業課題研究	2016.April- 2016.December	4年次学生主指導2名、3年次学生主指導1名:4年生については、研究デザイン構築、倫理審査書類整備、研究フィールド獲得、データ分析、中間発表会、最終審査のための発表会、論文構築という一連の研究プロセスを支援した。3年生については、研究デザイン構築を支援した。

(5) その他			
1	該当なし		
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	獨協医科大学越谷病院看護研究研修	獨協医科大学越谷病院看護部	看護クリニカルラダーⅢa:看護研究の基礎と実践看護クリニカルラダーⅢb:看護研究の実践と公表 上記をテーマに各グループに月1回6カ月間合計12回の研修会開催
			開催年月 2016.June- 2017.January
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	越谷市介護給付費等の支給に関する審議委員会	委員	2013.April-現在
2	豊島区区民ひろば課WHO認証プロジェクト セーフコミュニティ	委員	2013.April-現在
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
5. 学内運営(委員会委員)			
1	奨励研究部会 部員		
2	国際交流委員会 委員		
3	大学院FD企画部会 部員		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		